

令和2年度第1回山高神代ザクラ樹勢回復検討委員会

会議録

新型コロナウイルス感染症予防及び熱中症対策のため、室内での会議は中止し、現地視察と指導・助言のみとした。

会議日時：令和2年8月28日（金）午前10時～12時

出席者：委員 9名
参加 1名
設計監理者 2名（日本花の会）
事務局（市学術課）1名

※文化庁調査官は、感染症予防のため派遣を取り下げた。

説明・指導・助言

1. ネコブセンチュウ病について

事務局：事前に根茎調査を実施し、ネコブセンチュウ病の発生を確認。状況を委員に説明し、対策について意見を求めた。

委員：地表下の浅い根の状況は分かった。下から上へ伸びる根が認められるが、深いところの土壌環境に問題があるかもしれない。改善を図るべきか。

花の会：フトミミズが活動していることが確認されているので、深いところの環境は悪くないと思われる。

花の会：指定文化財なのでネコブセンチュウ防除の薬剤を使用できない。施肥を通じて土壌中の生物多様性を向上させ、ネコブセンチュウを抑制する対策を講じたい。ネコブセンチュウを餌にするセンチュウもいる。

委員：地元保存会でも落葉を敷くなどしたい。

※この対策案に対し、特段の意見、異議はなかった。

2. 大枝支柱の改良について

事務局：東に伸びる大枝は大半が枯死・腐朽し、コンクリート製支柱の効果が薄くなっている。大枝の折損を防止するため支柱を改良したい。

花の会：現在ある吊り支柱では大枝を支えきれないため、金属製支柱で強度が高い吊り支柱などの設置を考えたい。西側に伸びる大枝にも必要と考えている。

委員：見た目よりも枝の支持効果が高い支柱を設置するのがよい。

3. 主幹の保全について

事務局：地元から主幹を保全したいという強い要望がある。枯死した主幹の腐朽を止めることはできないが、神代ザクラの象徴である太い主幹を一定期間、保持することはできる。図示したように金属製支柱で主幹樹皮を固定し、崩落を防ぐ方法を提案したい。

この方法は安価で、かつ必要に応じて支柱を増やす、固定位置を変更することができる。

加えて、主幹が残っているうちに3Dレーザー測量を行い、現在の形状をデータ保存しておきたい。将来、技術、新素材が開発された際には、往時の主幹を複製して設置するなどの対応も可能となる。またVR、AR技術をもって往時の姿を観てもらうこともできる。

委員：主幹全体を鉄製の檻で囲って、檻からワイヤー等で樹皮を支えたらどうか。

委員：主幹の腐朽は止められない。

委員：主幹の保全方法に正解はない。どのような方策を講じても腐朽は進んでしまう。

事務局：檻方式も事務局で検討した。効果は高いが、外観を大きく損ねる、大がかりな基礎が必要で根に影響が生じる、ワイヤー等でクモの巣状態になる、製作・設置費が高額である、などのデメリットが大きい。

※事務局提案に対し、上記のほか特段の意見、異議はなかった。

4. その他

委員：積雪による枝折損が心配である。実相寺さんも降雪のたびに雪を払ってくれているが、高い枝まで届かない。有効な対策はないか。

花の会：平成26年豪雪の折、吊り支柱のおかげで枝折損がなかった。今回の事業のなかでより効果的な吊り支柱へ改良したい。

委員：病虫害対策その他、専門家が最善と考える方策を講じていただきたい。地元にとっては観光資源でもあるが、まずはサクラの保護が第一である。

以上